日本医史学雑誌 第三十九巻第四号 目次

特別寄稿

二〇世紀末におけるヒポクラテス医学と哲学 …… スヒロス・マルケトス 訳・深瀬 泰旦 …… 四六三

原著

京都府立「癲狂院」の設立とその経緯 …… 小野 尚香 …… 四七七

朝倉氏遺跡出土の『湯液本草』 …… 真柳 誠 …… 五〇一

明治期の陸軍看護システム …… 黒澤 嘉幸 …… 五三三

痰の起源（二）——梁以前の医書にみられる「痰」の検討—— …… 遠藤次郎・中村輝子・八巻英彦・宮本浩和 …… 五四三

広場

医学史研究の臨床医学への応用——医学史研究のより広い理解と実践を求めて—— …… 松木 明知 …… 五五五

資料

和刻漢籍医書総合年表——出版者名索引 …… 小曽戸 洋 …… 五七三

記事

消息

北海道医史学研究会設立総会 …… 島田 保久 …… 五九五

「高松宮記念ハンセン病資料館」の開設 …… 成田 稔 …… 五九五

例会抄録

中世ヨーロッパの思想 Six non naturals とナイチンゲールの看護思想について …… 平尾真知子 …… 五九九

中国伝統医学の蔵府を考える——肝と肝臓 Liver …… 宮川 浩也 …… 五九七

森鷗外と医学留学生たち …… 山崎 光夫 …… 五九八

紹　介

福島義一著『聞き書き・医者のみた阿波史・新阿波医人伝』……片岡　義雄……六〇〇
三浦豊彦著『労働と健康の歴史』（第七巻）……保坂　捷子……六〇一
シャーウィン・B・ヌーランド著、曽田能宗訳『医学をきずいた人びと』上下二巻……大滝　紀雄……六〇三
新村拓著『ホスピスと老人介護の歴史』……杉田　暉道……六〇四
石田純郎編著『緒方洪庵の蘭学』……津田　進三……六〇六
小高健著『伝染病研究所』……高橋　勝三……六〇七
トーマス・マーキュン著、酒井シヅ・田中靖夫訳『病気の起源』……網野　豊……六〇八
吉田直哉著『私伝・吉田富三　癌細胞はこう語った』……梶田　昭……六〇九
小竹英夫著『柏倉忠粛とその周辺』……渡辺左武郎……六一〇
日本医史学雑誌第三十九巻総目次……六一七

〈本号の表紙絵〉

かのウィリアム・ハーヴェイもその解剖書を利用したといわれるデュ・ローランス（1558-1609）

アルル生まれのAndré du Laurensはモンペリエ大学の出身で、1586年母校の教授に就任した。1600年宮廷医としてパリによばれ、アンリ四世の侍医となった。1595年エルフルトで出版された*Historia anatomica humani corporis*は、ヴェサリウスやヴァルヴェルデなどから図をとっており、独自の観察はすくないが、当時もっとも人気ある解剖書となり、おおくの版をかさねた。

図は本書1600年パリ版にのる、C.D.Malleriえがくところのデュ・ローランス。

（深瀬　泰旦）